

平成27年度 事業報告

1. WAC事業（公益目的事業・その他事業1・その他事業2）

*WAC（ウェルイング）コミュニティ事業：

平成元年に厚生省（現厚生労働省）が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

○公益目的事業：WAC法に基づく施設（疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム）の設置および運営

○その他事業1：疾病予防運動センターのうち60歳未満の利用者（全利用者の3割相当）に該当する部分

○その他事業2：在宅介護サービスセンターのサテライト拠点（奈良事業の奈良店）

老人保健施設・訪問看護ステーション・ケアプランセンター（奈良事業のみ）

(1) 奈良事業

（厚生労働省WAC認定事業：H2.10.17付）

① 疾病予防運動センター（WAC第1号施設）

【ニッセイ・アーク西大和】

- ・地域会員の在籍数が大きく減少したことから、新規会員獲得に努めました。ホームページの有効活用、地元情報誌への広告掲載などのPR活動に注力しましたが、会員数の大幅回復までには至りませんでした。
- ・パーソナルトレーナーの増員やペアストレッチなど新プログラムの充実を図るとともにプールプログラムの充実・更新、運動・健康相談の実施等の声掛けを増やすなど、サービスの向上、運営の安定化に努めた結果、前年よりも退会者数は減少しました。

② 診療所（WAC第1号施設付置診療所）

【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・河合町保健事業への協力や、近隣医療機関と連携して地域住民の疾病管理、健康増進等を推進する活動に引き続き取り組みました。
- ・整形外科外来を再開し、利用者ニーズに応えることはできましたが、内科の患者数が伸びず減収要因となりました。入院は単価増による収入増となり、また計画的な在宅復帰に向けての協力体制が維持できました。
- ・安全でくつろげる入浴の提供や他施設との交換研修、看護ラダー導入、本人が望むトータルケアとしての看取りの実践などを通じてサービスの質の向上に努めました。

③ 高齢者総合福祉センター（WAC第2号施設）

【ふれあいプラザ】

- ・新しい講師の招聘と文学講座の拡大を実施し、純クラシックの演奏会を河合町立文化会館まほろばホールと連携して開催するなど、「地域の愉しみ」の発信基地として活動しました。
- ・ニーズの高い外出企画を美術・美食・逍遥の3つのテーマで開催したところ、全て定員に達するなど、地域とのネットワークづくりを意識して活動しました。

④ 在宅介護サービスセンター【訪問介護、福祉用具貸与・販売事業、居宅介護支援事業】

（WAC第3号施設）【ニッセイいれい在宅介護サービスセンター西大和店・奈良店】

- ・介護保険制度改正により介護報酬単価は下がりましたが、地域包括支援センター・居宅支援事業者との連携や有料老人ホーム等へのヘルパー派遣による利用者増などによって、予算を達成することができました。
- ・福祉用具貸与事業では、取扱商品を増やす等した結果、利用者の増加につながりました。
- ・奈良店は西大和地区への集約のため、上半期で閉鎖しましたが、利用者並びにその家族の要望をもとに他事業所への利用者引継ぎを滞りなく行うことができました。

⑤ 訪問看護ステーション【訪問看護事業】（WAC第3号関連施設）【訪問看護ステーション西大和・奈良】

- ・ターミナル期や難病の依頼が増加し、緊急時対応や時間外訪問の回数が増えた結果、利用者数・訪問件数ともに増加しましたが、介護報酬単価の減算、休日加算交通費の見直しにより事業収益は予算未達となりました。
- ・訪問看護ステーション奈良は、在宅介護サービスセンター奈良店同様、上半期で閉鎖しましたが、利用者ならびにその家族の要望をもとに他事業所への利用者引継ぎを滞りなく行うことができました。

⑥ ケアプランセンター【居宅介護支援事業】（WAC第3号関連施設）【ニッセイいれいケアプランセンター西大和】

- ・利用者の入院・入所・ご逝去が想定よりも多く件数は伸び悩みましたが、特定事業所加算単位数増などにより収益は予算達成しました。
- ・地域包括支援センターや訪問看護との連携を通じ、医療関係機関との連携強化にも取り組みました。

⑦ 有料老人ホーム【特定施設入居者生活介護事業】（WAC第4号施設）【奈良ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は20戸、退去が22戸（一般9戸、介護居室13戸）、介護居室への住替えが13戸ありました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は397戸（総戸数408戸に対し入居率97.3%、入居者数495人）となり、引き続き高い入居率を維持することができました。（一般居室357戸/362戸（入居率98.6%）、介護居室40戸/46戸（入居率87.0%））
- ・入居者の平均年齢は81.9歳（男性81.2歳、女性82.2歳）となり、対前年0.3歳増となりました。
- ・総入居者数495人のうち要介護等認定者数（割合）は年度末122人（24.6%）となりました。
- ・介護予防プログラムとして認知症予防短期集中プログラムを開始し、頭の健康体操（軽度認知障害チェック）や運動機能管理、栄養管理の3つを柱とした取り組みを強化しました。
- ・パーソン・センター・ド・ケアの考え方を継続しながら基本理念・施設理念に立ち返り『最も信頼できる隣人』としての自覚をもってサービスを提供できる職員の育成に努めました。
- ・食事サービスにおいて、新規の喫食者を獲得すべく種々のイベント企画や新規に作成した専用掲示板による情報発信に努め、喫食数の改善を図る取り組みを強化しました。
- ・エネルギー使用削減の一環として共用棟の照明のLED化を推進し、費用削減に努めました。

⑧老人保健施設〔介護老人保健施設、通所リハビリテーション、短期入所療養介護〕

(WAC付帯施設)【奈良ベテルホーム】

- ・複合施設の特長を生かし、地域周辺のケアマネージャー、病院、地域包括支援センター等へ計画的・定期的な渉外活動を行う中、利用者の依頼に迅速に応えられるよう心がけるとともに、日々のベッドコントロールを強化する等、利用者増加に努めました。
- ・ケアマネ会への参加等を通じて、河合町・地域との連携を強化し、地域との情報交換に努めました。
- ・通所リハビリテーションにおいて、2ヶ月に1度パンフレットを作成し、地域にアピールするとともに、運動・物療機器を導入し、近隣の事業所向けの施設見学会を行う等、利用者の増加に向けた広報活動を積極的に行いました。

(2)松戸事業

(厚生労働省WAC認定事業：平成6年12月15日付)

①疾病予防運動センター (WAC第1号施設)

【ニッセイフィットネスクラブ 松戸】

- ・新規入会者はやや伸び悩みましたが、パーソナルトレーニング拡充とジュニアダンススクールの新設により、地域住民の方にも多くご利用いただき、会員収入は前年よりも増加しました。
- ・退会者については前年比88%と、伸び悩んだ入会者を退会者の減少によりカバーしました。

②診療所 (WAC第1号付帯施設)

【松戸ニッセイ聖隷クリニック】

- ・地域の医療機関と連携し、他院で手術をした入居者を速やかに受け入れる体制を整えるなどサービスの向上に努めた結果、外来、入院ともに前年を上回る患者数となりました。
- ・CT装置の導入により、病気の早期発見が可能となったことから、発見から治療までの一貫した受診継続がより一層可能となりました。

③高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設)

【ニッセイ松戸アカデミー】

- ・地域交流の増進、高齢者の生きがい増進にかかわるサービスの提供など、従来からの取組みに加え、文化教養講座では、新企画として「能楽」の講演会を開催、新たなジャンルを通じて地域との結びつきをより一層強化することができました。
- ・定期的に発行する地域向け広報誌では、園の紹介記事を増やすなど情報発信の強化にも努めました。

④在宅介護サービスセンター〔訪問介護事業〕(WAC第3号施設)

【ニッセイケアヘルパーズステーション】

- ・利用者のニーズを的確に把握・対応できる事業所を目標に、専門性の高いスタッフを育成することに努めました。
- ・松戸市東部地区高齢者連絡会の専門部会や東部地区地域ケア会議に参加し、事例検討会や地域住民対象の勉強会で講師を務める等、情報連携や地域とのつながりの強化にも努めました。

⑤有料老人ホーム〔特定施設入居者生活介護事業〕(WAC第4号施設) 【松戸ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は19戸、退去が18戸(一般居室8戸、介護居室10戸)、介護居室への住替えが5戸となりました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は343戸(総戸数352戸)に対し入居率97.4%、入居者数425人となりました。(一般居室315戸/315戸(入居率100%)、介護居室28戸/37戸(入居率75.7%))
- ・入居者の平均年齢は84.0歳(男性83.3歳、女性84.2歳)となり、対前年±0歳でした。
- ・総入居者数425人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末で134人(31.5%)となりました。
- ・認知症ケアマッピング、センター方式、個々入居者の残存能力の把握と生活リハビリの継続支援等により個性を重視した介護サービスの提供に繋げるとともに、各職場との連携強化にも努めました。
- ・介護予防や認知症対応、入居から看取りまでを支えるトータルケアの実践並びにその取り組みについて、周辺地域等にも情報発信するなど、広く啓発していくことを推進しました。

II

調査研究事業《公益目的事業》

(1) 地元行政機関等と連携した地域住民への高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野(以下「4分野」という)に関する情報提供

- ・3月に奈良施設の大ホールを利用して、「健康寿命を延ばす歩行とは」をテーマに、白鳳短期大学総合人間学科リハビリテーション学専攻の井上先生による講演会と、ニッセイ・アーク西大和の健康運動指導士による体操講習のウェルネスセミナーを、地域住民も参加のもと、開催しました。
- ・11月に松戸施設の大ホールを利用して、「緩和ケアと緩和ケア病棟～超高齢社会・地域包括ケアにおける役割～」をテーマに東松戸病院による市民公開講座が開催されました。

(2) WAC事業の展開の中で4分野に関するノウハウ・スキルの研究と成果の関係諸機関への情報提供

- ・高齢社会における安心なまちづくりに向けた住民の見守りあい体制のあり方に関して、高齢化率の高い松戸市梨香台団地を事例とした調査研究の成果を受けて、あんしん電話をツールとした地域見守り体制づくりのプロセスの検証・今後の方策などについて考察を行いました。
- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び学会を10・11月に開催、その研究成果について地域住民や関係諸機関へ情報提供を行いました。
(社会福祉法人聖隷福祉事業団及び一般財団法人日本老人福祉財団との共同研究)

(3) 地域住民への4分野に関する情報提供活動の実施

- ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、近隣にお住まいの高齢者及びその家族に対して、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取り組みを実施しました。
- ・奈良施設、松戸施設各々で「高齢期の暮らし」をテーマに講演会を開催し、高齢期の住まいの選択肢のひとつとして有料老人ホームを核としたまちづくり施設の情報提供に努めました。

III

奨学金助成事業《公益目的事業》

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- ・1人当たり助成金は年間24万円(月2万円)、年間助成対象者は50人です。これまでの累計助成者数は633人となりました。